

社員の声に耳傾ける

職場環境の改善

検査機器や試薬の販売などを手掛ける秋田市卸町のサノ(佐野宗孝社長、従業員33人)は、SDGsの実現に向け、昨年10月に「SDGs宣言」を策定した。国連が掲げた目標のうち「働きがいも経済成長も」「すべての人に健康と福祉を」などの項目に重点的に取り組んでいる。

社員7人でつくるプロジェクトチームが毎月、社の幹部を交えた会議を開催し、職場環境の改善に向けて意見交換している。これまでに毎年のストレスチェックと、心理カウンセラーによる社員の相談窓口の設置を決め

サノ(秋田市)



社員の資格取得支援の在り方を話し合うプロジェクトメンバーら＝昨年11月

た。現在は社員の資格取得を後押しする制度の在り方について議論。今後、資格取得の支援金や報奨

金を支給する制度を設ける方向だという。

同社は社員が働きがいなどについてどう感じているかを把握しようとして、昨年6月に従業員満足度調査を初めて実施。仕事

の割り振りが公平か、自分の発想を表現できているか、経営陣に意見を言いやすいかなど34項目の質問を用意し、回答してもらった。

プロジェクトチームでは、この調査結果を基に、幹部との話し合いに臨んでいる。チームのリーダー・天野厚第一営業部長(47)は「社員の思いをボトムアップで届けられる」と話し、引き続き、社内の職場環境の整備を通じ、SDGsの実現を目指していくという。

佐野社長(31)は「SDGsと経営を結びつけ、どういう取り組みをすれば、自社を伸ばしていけるかを考える必要がある。より良い会社になるための旗印としてSDGsを位置付け、一歩ずつ進んでいきたい」と先を見据えた。